[ワイズギアクラブ] 快適なバイクライフ・マガジン

Y'S GEAR CLUB

Vol.33
2011 January

Parts LINE UP
YAMALUBEガラスコーティングセット
YJ-5Ⅱ ZENITH HAYATE
簡単GPSコンパス Qファインダー

開発者が語る
JAPAN CRUISING
Drag Star 250

RACE NEWS
All Japan Race
JSB1000 & IA super & IA 1
ロードレース中須賀克行 インタビュー
トライアル黒山健一・モトクロス成田 亮

Road Racing World Championship Grand Prix MotoGP
3年連続3冠！そして2011開幕へ向けヤマハ始動！

最新盗難抑止システム
SP-2の威力

風間深志コラム「地球に遊ぶ」

2011 January & February
オリジナルカレンダー付

女一人旅・文学を駆ける
「伊豆の踊子」を巡る旅

Y'S GEAR Vol.33 CLUB
発行／株式会社ワイズギア 〒432-8058 静岡県浜松市南区新橋町1103番地
商品に関するお問い合わせ先 0570-050814 http://www.ysgear.co.jp/
PRINTED WITH SOY INK
Y'S GEAR SPECIAL GEAR & ACCESSORIES

開発者が語る
Y'S GEAR ITEM

「もっと気軽に、自分らしく日本ならではのバイクライフを楽しんでほしいです」

ワイズギアが提唱する新スタイルコンセプトジャパンクルージングからDS250シリーズがこの1月に登場した。そのこだわりと魅力に迫る。

Drag Star 250
JAPAN CRUISING
ジャパンクルージング

ジャパンクルージングはこれまでDS4、SRのシリーズが発売されていますが、そもそもこのシリーズが生まれた背景には、ワイルドなイメージのあるアメリカンや伝統あるヨーロッパイメージをもっと日本のメーカーらしくカスタマイズすることはできないのか、ということがありました。買い物で気軽に街乗りしたり、日帰りのツーリングを楽しむ日本のバイクライフに合わせた機能。日本ならではのスタイル。それらを形にしたのが、今回発売されたDS250ジャパンクルージングです。

ドレスアップパーツは全9種あり、それぞれにこだわりや苦労した部分があります。例えば、ショートスクリーンはDS250の柔らかいフォルムに合わせ、3Dの立体曲面を作っています。このラインを出すのはなかなか難しかったですね。また、スモールフラッシャー&テールのテールライトはFRPに蒸着メッキをかけていますが、このFRPは職人による手張り。とても手間がかかっていて、採算度外視です（笑）。そして、取付け構造が難しく、開発課が一番頭を悩ませた商品がリアサスペンションカバー。これはノーマルサスペンションに被せるだけでカバードサスペンションに見え、高級感がアップします。ほかにも商品がありますが、このシリーズはDS250を手がけたGKダイナミックスのイメージ画が発端となり開発されました。それを製品化するにあたり、そのデザイン性と使いやすさや安全性などの機能性をいかに両立させるか、一筋縄ではいかない部分がありました。また、パーツはすべて日本の工場で作られています。これもジャパンクルージングを唱うにあたっての私たちのこだわりのひとつです。

DS250にこのドレスアップパーツを纏うことでスタイル性はもちろん、疲れにくかったり、女性にもより乗りやすくなるように配慮されています。使い方は様々ですが、皆さんに「こんな世界もあったんだ」と感じてもらえたらうれしいですね。

株式会社ワイズギア
商品開発部 商品企画課 LVグループ
森屋 晋吾さん

スリムグリップ　レッド　3,990円／手の小さい人でも握りやすいように、グリップ径を直径で約4mm細く設定。カラーはフォワードシートと同色のワインレッド。表面はスムースサイドケースと同様革シボ風加工でオシャレに仕上げている。

DS250フォワードシートレッド 29,400円／ワインレッドの表皮がオシャレで印象的。シート後部の肉厚を上げているため着座位置が前進。小柄な人も手足の突っ張り感がなくなり座りやすい。一体型だが２分割に見えるデザインもポイント。

スムースサイドケース　73,500円／ケースとリアフェンダーの隙間を極力小さくし、車体との一体感をアップ。バガースタイルに変身。表面はあえて革バッグ風に仕上げて素材感を出している。2L＆1Lペットボトル各1本が容量の目安。

DS250ショートスクリーン
希望小売価格 ￥29,400(本体価格 ￥28,000)

スリムグリップ レッド
希望小売価格 ￥3,990(本体価格 ￥3,800)

DS250ドレスアップフレーム
希望小売価格 ￥24,150(本体価格 ￥23,000)

DS250フォワードシート レッド
希望小売価格 ￥29,400(本体価格 ￥28,000)

DS250タンデムシート レッド
希望小売価格 ￥16,800(本体価格 ￥16,000)

DS250スモールフラッシャー&テール
希望小売価格 ￥34,650(本体価格 ￥33,000)

DS250タンデムリアキャリア
希望小売価格 ￥18,900(本体価格 ￥18,000)

DS250リアサスペンションカバー
希望小売価格 ￥18,900(本体価格 ￥18,000)

スムースサイドケース ホワイト/ブラック
希望小売価格 各￥73,500(本体価格 ￥70,000)

⚠安全に関するご注意
商品を正しくお使いいただく為、ご使用の前に必ず取扱いの注意事項をご確認いただき、ご不明な点は販売店にお問合せ下さい。

女一人旅・文学を駆ける

「伊豆の踊子」を巡る旅

川端康成（かわばたやすなり）

自然が溢れ、温泉地としても人気観光スポット・伊豆。85年前、この地で川端康成がひとつの名作を発表した。その舞台を「YZF-R1」で巡る冬の女一人旅が始まる。

今回の目的地は静岡県伊豆半島。人気の観光スポットであるこの地は、文豪・川端康成が愛した場所でもある。彼の代表作のひとつに一高生「私」と旅芸人一座の踊子との交流を描く『伊豆の踊子』がある。その舞台を旅のルートに選んだ。旅を共にするのは、パワフルさと乗りやすさを備えたスーパースポーツバイク「YZF-R1」。こだわり派の彼女は赤×白のストロボ外装セットでドレスアップし、文学の旅路を走り始めた。

東名沼津I・CからR414へ。そこから1時間強の道のりを快調に走る。そして最初に訪れたのは、川端康成がこの小説を執筆した宿として知られる湯ヶ島温泉の旅館「湯本館」。創業100年を超える老舗旅館で小説の中でも「私」が二度目に踊子を見た場所として登場している。旅館へと入ると踊子の踊った玄関の板敷や川端康成が執筆に使った部屋など、当時の趣があちらこちらに残されていた。漂ってくる文学の薫りに旅女の秋江は「旅のつかみはOK」とばかりに心躍らせながら、次の目的地へとバイクを走らせた。

湯本館から走ること数分。「浄蓮の滝」に着く。幅7m、高さ25mの玄武岩を流れ落ちるこの滝は、日本の滝百選にも名を連ねている。また、小説にその名は出てこないが、冒頭に出てくる天城峠付近にあり、「伊豆の踊子」像が立っている。その像はバイクを停める駐車場横にあった。彼女は像をみた後、石段を下りて滝の見学へ。勢いよく流れ落ちる滝を前に「空気が清々しくて気持ちいい」と大きく深呼吸し、その場所をあとにした。

湯ヶ島温泉にある明治５年創業の老舗旅館「湯本館」。川端康成が『伊豆の踊子』を執筆し、その後も長期逗留した宿として有名。館内にはゆかりの品や資料が飾られ“川端ワールド”を堪能できる。川端はこの湯ヶ島をこよなく愛し、「湯ヶ島は私の第二の故郷と思われる」と『湯ヶ島の思ひ出』でも述懐している。

伊豆の踊子の足跡をたどる

（左・右下）「浄蓮の滝」の降り口にある「私」と踊子の像。天城の山々を指差す「私」と同じポーズで彼女も記念撮影。（右上）日本の百選のひとつである「浄蓮の滝」は、天城峠付近にある。

（右）『伊豆の踊子』で「私」（川端康成）が３泊した湯ヶ野温泉「福田家」。（上）「私」が泊まった部屋で『伊豆の踊子』を読む。以前とはと違う新たな感動が生まれる。（下）「福田家」の橋から湯ヶ野温泉の街並みを見る。
（※敷地内へのバイクの乗り入れは撮影許可を得ております。）

（上）川端康成が湯本館で『伊豆の踊子』を執筆した部屋「川端さん」（部屋名）。当時のままの姿で残っている。（右）踊子が玄関の板敷で踊る様子を見た「湯本館」の梯子段に、同じように腰を下ろす。この場所も当時のままの趣を残す。

伊豆を代表する観光名所でもある「旧天城トンネル」。1905年に完成し、全長455.5m。石造りトンネルで、その造りの随所に明治時代の職人の技とこだわりが見える。

「私」が踊子たちを追いかけながら潜り抜けた旧天城トンネルが、次の目的地。石造りのトンネルはとても風情があり、中へ入ると暗くて冷んやりした空気が流れていた。そして、トンネルの先に見える出口の小さな光。「小説の中の風景と同じ体験をしている」と彼女も満足の様子でトンネルを抜け、最後の目的地へ向かう。

最後は小説の中心舞台となった湯ヶ野温泉「福田家」を訪ねた。ここの滞在中に「私」が、共同浴場から踊子が裸で手を振るのを見た場面は有名だ。玄関脇の踊子像をはじめ、川端康成が宿泊した部屋が当時と同じ状態で残されていたりと、小説の世界を堪能できる。「物語の中へタイムトリップしたみたいで楽しかった」と彼女。今回も満足の旅となったようだ。さて、次に彼女はどの作品の地を巡るのか…お楽しみに。

（右）「福田家」の玄関前にある踊子像をかたわらにひと休み。この宿にも川端康成の資料が多数展示されている。（左）レトロな宿に彼女のこだわりのヘルメットがよく映える。

撮影協力／・湯ヶ島温泉 湯本館 tel.0558-85-1028　・浄蓮の滝 tel.0558-85-1125（代）　・福田家 tel.0558-35-7201

相互通信システムだから安心感が違う！

アナタの愛車を超強力ガード 最新盗難抑止システムSP-2の威力

ワイズギアから頼もしくて、楽しいセキュリティ装置SP-2が登場
4つのセンサがイタズラやドロボーから愛車を守ってくれる、その実力はいかに!?

PHOTO/T.HIROSE　TEXT/T.ITAMI

誰もが「自分だけは大丈夫」と思っているが、バイクの窃盗はこの瞬間にも行われている。そしてそれは、オーナーの愛情やバイクの価格とはまったく関係なく、スキあらば降りかかってくるのだ。そんな不幸を防ぐためにも、ワイズギアの最新セキュリティ装置〝SP-2〟を紹介しよう。

この装置が最も特徴的なのは、リモコンでさまざまな操作ができるだけでなく、常に愛車の状態をその画面に表示してくれる相互通信機能だ。そのアイコンは凝った画像でありながら、わかりやすいもので、見ているだけでも楽しめるに違いない。もちろん、異常を見逃さないセンサの精度はバツグンに高く、バイクに加えられた衝撃や傾きはもちろん、イグニッションへのイタズラも検知し、警報音を発してくれる。

また、オプションのバックアップバッテリーを接続すれば、ユニットの配線が切られた場合にもサイレンが鳴るという徹底したプロテクション機能が心強い。

なにかあれば、すぐにリモコンに知らせてくれ、その履歴も記録されるので、いつでも安心だ。

ちなみにこのリモコンは時計やタイマー、ストップウオッチにもなる多機能さを誇り、一台あればなにかと便利。遊び心と高いセキュリティ機能を備えたSP-2を是非オススメしておきたい。

リモコンの全長は約70㎜。手の中に収まり、軽い。液晶画面にはわかりやすいカラーアニメーションで様々な情報が表示される。通信距離は見通しで約100m

便利な相互通信機能を搭載！

設定画面

警報解除

警報セット

リモコンOFF

リモコンON

強制警報

リモコン本体の他、リモコン充電器、アンテナ、110dBの大容量サイレン、メインユニット、動作確認用LED等が主なセット内容。オプションとしてバックアップバッテリーも用意されている。
本体価格：3万6540円

装着はお近くのヤマハ車取扱店へ

SP-2の取り付けは、YSPなどの販売店に任せよう。ユニットを設置するスペースの確保、熱や振動の対策、ハーネスの加工など、相応のノウハウが必要なので、むやみに扱うとトラブルや誤作動の原因になる。またアンテナなどを安易に装着し、それが盗まれたり、壊されたりしては元も子もない。作業時間は今回の場合、1時間程度。

全国にあるYSPなど、確かなメカニックのいるショップなら安心しておまかせ

P　O　I　N　T

まわりに迷惑をかけないサイレントモード

セキュリティ装置が盗難抑止に威力を発揮することはわかっていても、装着を躊躇する人は意外と多い。その理由の多くはサイレン音の大きさだ。密集した住宅地などにバイクを止めている場合、たとえそれが泥棒撃退のためだとしても、夜中に大きな音を出して周囲に迷惑をかけたくないオーナーもいるはずだ。そんな時はサイレントモードを選べばOK。これは、4段階に設定できるサイレン時間の長さをOFF（0秒）にしておけば、手元のリモコンにだけに異常を知らせてくれる便利な機能だ。

ドロボーを感知＆撃退する4つのセンサ

① バッテリーセンサ

オプション設定のバックアップバッテリー（3360円）をメインユニットに接続しておけば、セキュリティ作動中にもし電源ハーネスを切られても自動的にバックアップバッテリーに切り替わってサイレンを鳴らし、リモコンユニットに異常を知らせてくれる

② イグニッションセンサ

万が一、泥棒がバイクのキーを手に入れていたとしても大丈夫。システムが作動している間であれば、メインスイッチを操作してもオーナー以外の不正なエンジンスタートと判断。その時点で警告音を鳴らしてくれる。キーボックスへのイタズラ防止にもなる

今回装着した車両 ヤマハYZF-R6

ヤマハが誇るミドルクラスのスーパースポーツ。そのコンパクトさゆえ、スクーター等と違ってカウル内側やシート下のスペースは少ないが、SP-2の各種ユニットやアンテナはしっかりと固定、装着することができた

④ 衝撃センサ

車体に受けた衝撃を2段階で感知。弱い衝撃には警告音を、強い衝撃になると警報音で威嚇してくれる。衝撃の感度は24段階で設定できるため、駐車スペースの環境（大型トラックの往来による振動など）や台風などの天候の変化にもきめ細かく対応できる

③ 傾斜センサ

駐車中、バイクの傾きが変化すると、それを感知。感度はOFF、6.0度、9.0度、12.0度の4段階から設定できる。システム作動から5秒後の傾斜角度を基準にしてセンサが検出するため、もし設定角度に達するような坂道に駐車しても誤作動する心配はない

自分だけは大丈夫なんて思わないこと！

これがあればさらにカンペキ!

最終的にはSP-2に頼るとしても、カバーやロックを併用すれば、セキュリティ効果は倍増。泥棒に「面倒臭そうだな」と思わせればこっちのものだ。これらの商品もワイズギアで多数ラインナップ！

早瀬昭二さん

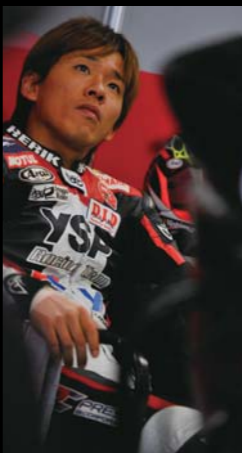
セキュリティ装置はとても有効ですが、普段の意識も大切です。例えば、コンビニなどでキーを付けたまま買い物したりしていませんか？　盗難は「まさか」と思うような時に起こることを常に意識しておいてください

※「ライダーズクラブ12月号」より転載

全日本ロード最高峰クラス V3を懸けた 中須賀克行の闘い

中須賀克行は、落ち着いた表情をたたえていた。
懸かっているものの重さは、一切関係ない。
ただひたすら、勝つことだけを考える。
これは、いつも通りのレースに過ぎない――。
彼はそう思っていた。

文――高橋 剛　Go Takahashi　撮影――真弓悟史　Satoshi Mayumi
取材協力――ヤマハ発動機株式会社

攻めることの意味。

YSP Racing Team with TRC
中須賀克行 Katsuyuki Nakasuga

1981年、福岡県北九州市出身。ポケバイ、ミニバイクレースを経て、'97年からロードレースに参戦。西日本選手権&エリア選手権125ccクラスでチャンピオンに。'00年から全日本ロードレース250ccクラスにフル参戦を開始。'05年から最高峰のJSB1000クラスに参戦し、'08年、'09年と2年連続でチャンピオンの座に就いた。

攻め抜いた先にあるもの

そのピットには、とても静かな時間が流れていた。頭上では、ST600クラスの表彰式が行われている。拍手も歓声も、ピットの中には届かない。中須賀克行がヘルメットをかぶり、グローブを着ける。胸に手を当て、目を閉じる。いつも通りの、祈りの儀式だ。

シャンパンの飛沫が、ボタボタと大きな音を立てて落ちてくる。勝者に捧げられた称賛の香りが、ピットにふわりと漂う。今、中須賀が何よりも求めているもの。その残り香を掻き分けて、彼はYZF-R1を発進させた。

直撃が予想された台風14号はすでに足早に過ぎ去っていたが、居残った低気圧の影響で、空は厚い雲に覆われている。冷たく、重い空気が充満した鈴鹿サーキットで、全日本ロードレースは最終戦を迎えていた。JSB1000クラスは、午前と午後に2度のレースが行われる。いわばボーナスステージといった位置付けだった。

午前11時すぎ、第1レースがスタートすると、中須賀は秋吉耕祐と伊藤真一に続く3番手につけた。トップを行く秋吉が速い。伊藤と中須賀を引き離し、独走しようとしている。伊藤がそれを阻止すべく追いすがる。このふたりがハイペースでレースを引っ張る。

「これはキツいな」

中須賀はそう思っていた。マシンの特性は理解している。スタート直後は、予定通りペースを抑えた。それでもなお、3周目あたりからかなりきわどい状況にあった。

しかし中須賀に、2台の先行を許すつもりはまるでなかった。彼は目の前の伊藤を見ていない。少し先にいる秋吉すら見ていない。ふたりの先にあるもの、ただそれだけを見据えていた。

5周目には1秒2まで広がっていた伊藤との差を、じりじりと詰めていく。6周目、1秒差。7周目、0・8秒差。8周目、0・5秒差……。ギリギリの走りにタイヤがスライドする。

恐怖心はなかった。自分のマシンに起きているすべての現象が、確実に分かっていた。ラップタイムが落ちてもおかしくない状況なのに、不思議なほどダイレクトにマシンの状況が把握できている。リズムもつかめてきた。いつもよりレベルが高いライディングをしている自分に気付く。

さらに伊藤に接近した9周目。中須賀は逆バンクコーナーでマシンコントロールを失った。カウルと路面が接触し、カシャッという乾いた音がする。

「やっぱりそうか……」

周回数とラップタイムの兼ね合いで、相当リスクが高いことは分かっていた。

しかし中須賀に、守りのライディングをする気はなかった。攻めて、攻めて、攻め抜く。その結果としての転倒なら、後悔はまったくない。

「やり切ったぞ」

スポンジバリアに寄りかかり、達成感さえ覚えていた。このリタイヤでほぼ手の内から逃げてしまった大きな記録のことは、あまり考えなかった。

中須賀にとってこのレースは、'08年、'09年に続き、JSB1000クラスの3連覇を懸けた戦いだった。達成すれば、史上3人目の快挙となる。記録の重みを跳ねのけて、彼は攻め切ったのだった。

勝利へのこだわり

舞台は、中須賀が得意とする鈴鹿サーキット。ポイント争いは、2番手に6点差をつけての首位だ。事前テストでは自己ベストタイムを更新し、トップだった。手応えは悪くない。しかも最終戦は2レースが行われる。両レースを着実に上位で終え、より多くのポイントを稼げばいい。3連覇はすぐ目の前にあった。

しかし当の中須賀は、まったくそう思っていなかった。

「ポイントより、表彰台の頂点だ」

そう考えていた。

もちろん、3連覇を意識してはいた。全日本ロード最高峰クラスの3連覇は、'83〜'85年に平忠彦、'87〜'89年に藤原儀彦が成し遂げている。いずれも中須賀にとっては先輩にあたるヤマハライダーによる偉業だ。そこに自分の名を並べたいという思いはあった。

しかし中須賀には、連覇以前の大きな問題があった。それは今季、1勝も挙げていないことだった。

シーズン開幕前テストの転倒で負傷し、前半戦は思うようなライディングができなかった。折り返しとなるスポーツランドSUGOでの第4戦は、マシントラブルに見舞われて6位に終わった。なかなかリズムがつかめなかったが、それでも最終戦までの6レースで2位2回、3位2回。2年連続王者としての自信と経験が、苦しい中でも確実に中須賀を表彰台に立たせ、ポイントランキングトップの座に押し上げていた。

だがそれは、彼が本来求めているものではなかった。ただひたすら、勝ちたかった。

「勝ち星のないチャンピオンなんて、あり得ない」と、中須賀は言う。

「優勝を狙って120%の力を出し切っても、2位にしかなれない時があるぐらい、戦いは厳しいんです。2位や3位を狙っていたら、2位にも3位にもなれない。そんな悠長なことは言っていられない」

この徹底した勝利へのこだわりが、最終戦第1レースの転倒を招き、3連覇を逃した、とも言える。あの場面では、ポイントを重視した守りの走りも、あり得たのではないか……。

だが、中須賀は「そうじゃない」ときっぱりと否定する。

「そうじゃないんです。勝ちを狙い続けてきたからこそ、連覇が狙えるあの位置にいられたんですよ」

チーフエンジニアの水谷清孝も、まったく同じことを言った。

「例え3連覇が懸かっているレースでも、勝ちを狙う我々の姿勢はぶれなかった。中須賀があのポジションを走れたのは、勝利をめざしていたからなんです。その結果としての転倒なら、悔いはまったくありません」

レーシングライダーとチームのベクトルは、完全に一致していた。

「人の上に立とうって言うんですからね」と中須賀。「プロの中で1番になるんですから、並大抵のことじゃないですよ、勝つっていうのは。1度でも『こんなもんかな』というなぁなぁのレースをしてしまったら、攻めていけないライダーになってしまう」

3連覇の先達である藤原儀彦は、中須賀の第1レースを見て、「やっぱりレーサーだな」と思った。「レーサー」とは、目の前の勝利を追い求めて攻める姿勢を指している。

「若いと、無理してでも勝ちに行っちゃうんですよね。今の僕なら『絶対3連覇しておいた方がいいんじゃない?』って言いたくなるかな」と笑う。

「でも、僕自身が3連覇した時も、中須賀くんと同じように勝ちにこだわってましたよ。『3位でいいや』じゃなかった。ギリギリの走りで攻めることで、自分を高めていく。勝ち続けるには、それしかないんです」

第1レースで転倒するまでの数周、中須賀は今まで経験したことがない高いレベルの走りをしている自分を知った。「走り方が変わったことは確かだけど、うまく口では説明できないんですよ。何がそうさせたんだろう……」と、今はまだ不思議な領域だ。それがやがて、当たり前になる時が来る。それを繰り返しながら、前に進んで行く。

何も失っていない

午後3時すぎ、第2レースは雨の中でスタートした。中須賀は再び秋吉、伊藤に続く3番手に着ける。しかし雨で状況は変わっている。今度はふたりの大きな先行を許し、亀谷長純、柳川明との3位争いを展開していた。

3周目、中須賀が得意としているシケインへの進入で、亀谷に抜かれる。その翌周、同じ場所で抜き返す。スリッピーなレインレースで、誰にも余裕などない。あちこちでスライドを起こすリスキーなコンディションだ。

7周目、スプーンカーブで柳川明にかわされ、中須賀は4番手になる。雨量が増えてきた。走りのリズムが崩れる。いったん1秒8まで差が開く。今の状況下での走りを、組み立て直す。そして、追い上げる。10周目には柳川を抜き返し、再び3番手に上がる。先行しているふたりは、水しぶきすら見えない。ペースは自分で作っていくしかない。

集中していた。トップも2番手も、もう視界には入らない。しかし、勝利をめざす気持ちは微塵も変わらなかった。強まる雨の中、中須賀はまったく諦めることなく、ひたすら攻め続ける。

「攻めれば攻めるほど、ライダーが原因の転倒は減る」と中須賀。「前を追いかけるのを止めた時とか、ふっと集中力が切れた時に転んでしまいやすい。過去に何度もそういう経験をしています。だからとにかく攻めた」

第1レース、リタイヤ。第2レース、3位。総合ランキング、5位。淡々と結果だけ並べれば、敗北としか言いようがなかった。チームマネージャーの平忠彦は、「勝負事は難しいですね」とつぶやいた。

「死力を尽くした結果ですから、致し方ない。第1レースのリタイヤも、勝利への強い意志の表れです。私も経験上分かりますが、重圧は大きかったはず。その中で力を出し切ってくれた中須賀選手を、頼もしく思います。

チームとしては、シーズンを通して勝利が挙げられなかったことが非常に残念。原因を精査し、悔しさも含めて来年に向けた力に変えていきたい」

チーフエンジニアの水谷は、「終わったレースのことで『たられば』を言っても仕方ないんですが」と前置きしてから、こう言った。

「仮に第1レース3位、第2レース3位といったかたちで3連覇を達成したとしても、ライダーの満足感は薄かったと思う。チームとしてもまったく同じです。だから、連覇が成し遂げられなかったことに関しては、本当に悔いはありません。ただ、勝てなかったことが何よりも悔しい。勝つためには、速さだけではない武器が必要です。ライバルが進化していく中で、我々には足りないものがあった。

それでも、中須賀は攻め切ってくれましたからね。我々は、何も失っていないんです」

レースを終えて1日経った中須賀は、さばさばとした様子だった。そして、「僕のレベルなんか、まだまだですよ」と言った。てらいのない率直な言葉だ。

「平さんや藤原さんは、本当に凄かったんだなあって、つくづく実感してます。当時は速いライダーが今以上にわんさかといて、その中で成し遂げた3連覇ですからね。僕なんか、本当にまだまだ。やらなくちゃいけないことが山積みです」

一昨年、そして昨年と自ら達成した2連覇など、もうすっかりなかったことになっている。

「やらなくちゃいけないことは何かって? 意外と普通なことですよ」と笑う。ひとりのチャレンジャーとして、ただそこにいる。確かに彼は、何も失っていない。

新しい戦いの日々が始まろうとしている。めざすのは、称賛の香りが芳しい、シャンパンの飛沫だ。

※「ビッグマシン12月号」より転載

ロードレース世界選手権
MotoGP

2010 HYSTORY

3年連続で獲得したタイトル。チーム・ライダー・コンストラクター3冠！

今季を安定した強さで走り抜き、誰もが認めるチームの真のエースライダーへと成長したホルヘ・ロレンソ選手。そして長年に渡り王者として君臨。これまで支えてきたチームを離れ、来季からドゥカティのライダーとして、新たな戦いを始めるバレンティーノ・ロッシ選手。意地とプライドをかけ、ぶつかりあったこの新旧チャンピオンによるバトルは、最終的にロレンソ選手に軍配が上がった。そしてその相乗効果を受けてかチームは2008年、2009年に続く3年連続でのチーム・ライダー・コンストラクター3冠を獲得。うれしい偉業を達成した。

2010年の最終戦バレンシアにて。YZR-M1に乗るフィアット・ヤマハ・チームの#99 J・ロレンソ ＆ #46 V・ロッシ。

（上）383ポイントとシーズン最多獲得ポイントの記録を更新したJ・ロレンソ。（下）YZR-M1に初めて乗って優勝した2004年初戦南アフリカGPのようにクルーダウン時に"彼女"にキスするV・ロッシ。

3年連続3冠！そして2011年、開幕へ向けヤマハ始動!!

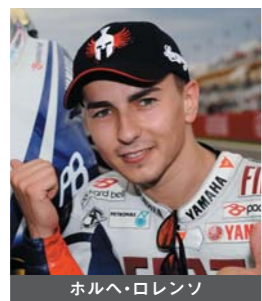
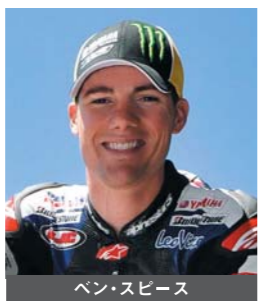
（上）ファクトリーチームへ移籍したベン・スピース。（右）2010の王者ホルヘ・ロレンソは2年連続チャンピオンを狙う。〈PHOTO／2010.11.9バレンシア〉

2011 RACE SYSTEM

チーム体制も新たに2011シーズンへ。4年連続3冠へのチャレンジが始まる！

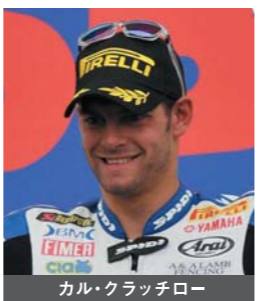
2010最終戦が終ったばかりのバレンシアでは11月9、10日に公式テストが行われ、早くもヤマハが動き出した。2011シーズン、ヤマハは2チーム、4人のライダーの参戦が予定されている。ファクトリーチームからは、新王者となったホルヘ・ロレンソ選手とサテライトチームからワークスライダーへ昇格のベン・スピース選手。そして、サテライトチームからは、コーリン・エドワーズ選手とスーパーバイクからMoto GPへの参戦となるカル・クラッチロー選手。今シーズン、新たな布陣で挑むヤマハに注目だ。

2011 YAMAHA RIDERS INTRODUCTION

二輪ロードレースの最高峰であり、世界中から熱い視線を集めるMotoGP。2011シーズン、ヤマハがMotoGPに送るライダーはこの4人だ！

ホルヘ・ロレンソ

ベン・スピース

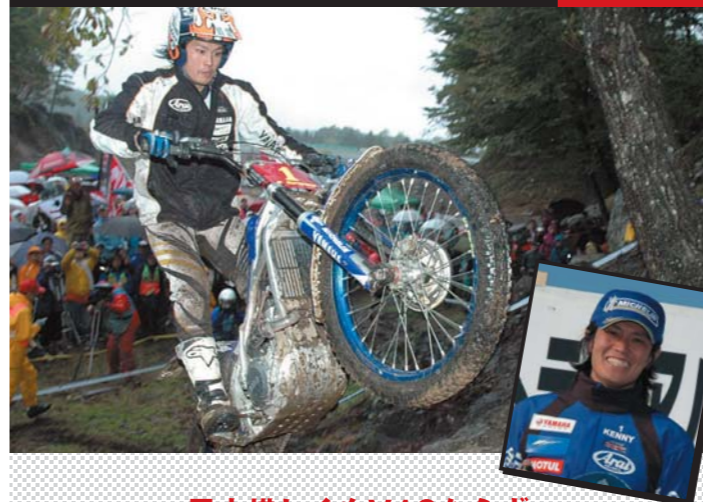
コーリン・エドワーズ

カル・クラッチロー

レース情報はヤマハ発動機(株)ホームページをご覧ください。 http://www.yamaha-motor.co.jp

全日本モトクロス&トライアル
2010 Race Report
ヤマハ惜しくも優勝を逃す!!

Trial

全日本トライアル選手権　IA super

Team・黒山レーシング・YAMAHA　黒山 健一　2位

黒山惜しくもV10ならず 2位で2010シーズンを終了

今季、稀に見る接戦となった国際A級スーパークラスのタイトル争い。通算V10を狙うディフェンディングチャンピオン・黒山健一選手（Team・黒山レーシング・YAMAHA）は第6戦でランキング2位。逆転の可能性を残し、最終戦に臨んだ。その舞台SUGOは昨年まで4連覇した自身も得意な会場。しかし、悪天候下で行われたレースでは苦しいスタートに。最後まで意地をみせたが逆転ならず。ランキング2位で終わり、10度目のタイトルは来季へ持ち越しとなった。

RIDERS RANKING

124ポイント 2位（シーズン終了成績）

Rd.	日付	会場	順位
Rd.01	3/14	関東	1位
Rd.02	4/11	九州	1位
Rd.03	5/23	関西	3位
Rd.04	8/ 1	北海道	2位
Rd.05	9/ 5	中国	1位
Rd.06	10/17	中部	3位
Rd.07	10/31	SUGO	2位

Motocross

全日本モトクロス選手権　IA 1

YSP Racing Team with N.R.T.　成田 亮　5位

アクシデントに泣かされた成田 シーズンを5位で終る

シーズン開幕戦を優勝で飾り、第8戦までランキングトップをキープ。4連覇へ大きな期待がかかった成田亮選手（YSP Racing Team with N.R.T.）だったが、第9戦の公式練習中の転倒で右足脛骨骨折のアクシデントに見舞われてしまった。第9戦、最終戦ともに欠場となり、結局ランキング5位でシーズンを終える残念な結果に。最終戦終了後「多くのファンに恩返しができないままシーズンを終えてしまったことが心残り」と語った成田選手。彼の再起に期待したい。

RIDERS RANKING

304ポイント 5位（シーズン終了成績）

Rd.	日付	会場	順位
Rd.01	4/ 4	近畿	1位
Rd.02	4/18	関東	1位
Rd.03	5/16	中国	6位
Rd.04	5/30	SUGO	1位
Rd.05	6/13	九州	中止
Rd.06	7/ 4	北海道	2位
Rd.07	7/18	東北	2位
Rd.08	9/12	近畿	3位
Rd.09	10/10	中国	欠場
Rd.10	10/24	SUGO	欠場

お年玉 モトGP&全日本ライダーのプレミアムグッズプレゼント！

各1名

貴重なサイン入りキャップや、入手困難なチャンピオンTシャツをGETするチャンス！

01 FIAT YAMAHA TEAM J.ロレンソ サイン入りキャップ

02 JSB 1000 中須賀 克行 2008 Tシャツ

03 IA super 黒山 健一 2008 Tシャツ

04 IA 1 成田 亮 2008 Tシャツ

05 IA 1 成田 亮 2009 Tシャツ

ご希望の方は、官製はがきに ●住所 ●氏名 ●年齢 ●本誌の入手先 ●本誌をお読みになった感想 ●ご希望のプレゼントを必ず明記の上、右記宛先までお送りください。

宛先 〒432-8058 静岡県浜松市南区新橋町1103番地
株式会社 ワイズギア「お年玉プレミアムグッズプレゼント」係

※当選者の発表は、商品の発送をもってかえさせていただきます。応募期間／2月28日消印まで有効。

レース情報はヤマハ発動機(株)ホームページをご覧ください。 http://www.yamaha-motor.co.jp

KAZAMA SHINJI COLUMN

「地球に遊ぶ」

連載 第15回

2011年は自然から学ぶ生き方が正しい。――地球元気村といざなぎ流の和合の極意

明けましておめでとうございます。平成23年・兎歳の幕開けです。

さて、2011年の私の新たな目標！とは？…22年間の長きに渡ってやってきた「NPO法人・地球元気村」の活動を、ここでもう一度、新たな気分で日本全国に再発信し、自然との調和のある社会を実践していく！

――これが僕の今年の初詣の誓い。

地球元気村とは、僕が1987年の北極点へのバイクの遠征で「生きて帰れたら、自然のありがたみと、我々が自然から学ぶべき事柄をみんなに伝えよう！」と心に誓って帰国し、これまで展開してきた「自然から学ぶ自然塾」(と言うより、自然から学ぶ事を実社会に実践する世直しの活動だと思っている)。

1989年春の山梨県は早川町の旧中学校のグランドから始まったこの活動。瞬く間に全国に広がり、現在までに「地球元気村」を体験した市町村は合わせて90余り。基本は一泊二日のキャンプ生活を通じて、野山の動植物・自然に遊んで学び、その感動や教訓を日常生活に持ち帰って、現代社会における「自然との調和型社会」を模索するのが狙い。

そのような誠に志しの高いと言える？崇高な市民活動だが、これも一重にバイクを好きになったばっかりに始まってしまった僕の自然賛歌・崇拝・回帰・畏敬の気分が元となる活動。バイクを駆る→自然を知る→社会を知る→そして「地球元気村」の順となっていったのだったが、フタを開けてみた現実は、大変・大変・もう大変。社会貢献活動の厳しさをを身にしみて実感する20有余年となった。

(左)地球元気村恒例の秋の大根堀りに参加した面々。(右)これがみんなで掘った大根で～す。

さて、そんなわけで、僕が2011年以降、元気村を新たな気分で推し進めていくに当たり、実は今、手元にある秘策がある。それは(ジャ・ジャン・ジャンジャン♪)、土佐・旧物部村に古くから伝わる「いざなぎ流」生き方の術。これを武器に、広く人々に元気村の理念を解ってもらおう！という計画である。

「いざなぎ流」とは現在の高知県の香美市物部町に守り伝えられてきた極めて古い民間信仰(宗教ではない)。陰陽道、修験道、仏教、神道などが混合して成立したと考えられ、太夫と呼ばれる伝道師により伝承され、現在に至っているもの。

僕が、ここの太夫さんと最初に出会ったのは10年前に物部村で地球元気村をやっていた頃のこと。この時90才を越える”太夫“のおじいちゃんに「いざなぎ流」の極意を聞いた。それによると、太夫さんは代々「口伝」によってその行為とする祈祷、御幣切りなどの技を弟子に伝え、人々の病を治め、山の神や水の神を鎮める祭り事を行ってきた。その方法は中国4000年の歴史よりもさら～に古く、唐天竺よりも遠いオスマン・トルコの地からも伝わったとさえ言われる長い長い時代と歴史の中で、多くの人々から抽出された「生活の知恵」を今に伝えているもの…と聞いた。しかるに、太夫の口ずさむ口上、御幣の形の一つ一つには、そんな深い意味が込められているとか？要約すると「いざなぎ流」は自然の応用力学にも似た「自然型生活術」。元気村が伝えたい、これからのライフ・スタイルのバイブルなのだ。

この太夫さんに学ぶ「いざなぎ流・祈祷師塾」を、今年の春辺りに地球元気村で開催しようかな？と思っている所。乞うご期待で～す！

高知県の山また山の奥に「いざなぎ流」の里がある。

(左)旧物部村は、もの凄い急峻な傾斜地に家々が張り付くように建っている。古い家の軒下に座って物思いにふける私。(中)こんな石がけの上に家々が点在している。(右)御幣を切って見せてくれた太夫さんの森安正薫さん(63才)。

冒険家 風間深志

プロフィール

数々の冒険の傍ら、バイクツーリングクラブ「MAC」のリーダーや、椎名誠氏率いる「いやはや隊」メンバーとして、さらにフィッシングクラブ「FAC」の会長、全国各地での講演や「地球元気村」の開催など、多方面で活動。2008年 WHO承認活動「運動器の10年」世界運動国際親善大使に就任。

＊NPO法人「地球元気村」代表
http://www.chikyu-genkimura.com/

写真左から／もっとも一般的なスタンダードの御幣。山を鎮める「山の神」御幣。水を鎮める「水の神」の御幣。何にでも効く「大荒神」の御幣。仲良しになる「和合の神」御幣。

01 2011 January

SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23/30	24/31	25	26	27	28	29

02 2011 February

SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28					

バイクに乗るときはヘルメットのあごひもは必ずしめましょう。

©Y'S GEAR

NEW PARTS LINE UP

2011 Y'S GEARパーツ紹介

パッケージ

●コート剤(20ml) ●ベースメーキング(40ml) ●マイクロファイバークロス(青)
●黄色スポンジ ●コート剤塗布用ウエス(白) ●製品説明書・取扱説明書
●キャリングケース

防汚性能が高く、汚れが付きにくいから
洗車のお手入れがラク!

ヤマルーブ ガラスコーティングセット

90793-40098　希望小売価格 ￥4,988(本体価格 ￥4,750)

バイク専用に開発されたガラスコーティングセットはクリア塗装のように透明感のあるガラス質被膜を形成し圧倒的なツヤで長期に渡って愛車を輝かせます。また、従来のコート剤と比べて防汚性能も高く、汚れが付きにくく洗車のお手入れがラクになります。

光沢性

柔軟性のある被膜と、配合成分であるシリコーンパウダーの性質により、透明感のある輝きが得られます。耐スリキズ性に優れているので、くすみが発生しにくく光沢が長期間持続します。

防汚性

ガラスコーティングの被膜で水や油性分の浸透を防ぎ、汚れ付着を予防します。また、汚れた場合でもお手入れが簡単。

作業性

施工タイプでありながら、ベースメーキングで塗装の下地処理を行い、シリコーンパウダーによるコート剤がムラなくコーティングでき、光沢ある美しい仕上げができます。

商品の詳細についてはウエブサイトをご覧ください。http://www.ysgear.co.jp/

YJ-5 II ZENITH HAYATE

希望小売価格 ￥19,950(本体価格 ￥19,000)

90791-2253□〈ブロンズブラック〉
90791-2254□〈サテンブルー〉
90791-2255□〈ダークブラウンメタリック〉
サイズ:S･M･L･XL･XXL
(□にはS=W、M=M、L=L、XL=X、XXL=Yが入ります)

●規格／JIS2種･SG新規格対応
●S～XXLの5サイズ設定
●長時間走行の疲れを軽減する低重心設計
●S.S.Hワンプッシュ着脱式シールド交換システム
●強靭なポリカーボネイト複合素材帽体
●リアリフレクトステッカー

商品の詳細についてはウエブサイトをご覧ください。
http://www.ysgear.co.jp/

疾風(HAYATE)とは「激しく巻き起こる風」。
和テイストの世界を表現したグラフィックモデル!

ブロンズブラック　サテンブルー　ダークブラウンメタリック

目的地を登録するだけの
カンタンGPSコンパスが登場!

簡単GPSコンパス Qファインダー

GPSコンパスQファインダー-GF-Q900　希望小売価格 ￥12,600(本体価格 ￥12,000)

●目的地を登録すれば、そこへの方位と距離をコンパス＋GPSの機能で示してくれます。
●例えば、山歩きで出かける際に、出発地点をAに登録しておけば、現在の場所からA地点までの方位と距離がわかり帰ることができます。また、お気に入りの場所をBに登録しておけば、次回の山歩きの時に目的地をBに設定すると方位と距離から同じ場所に行くことができたりします。
●登録できる地点は4箇所です。緯度経度や地図から目的地を登録してそこへ向かうという使い方ではなく、現在の地点を登録して次にそこへ行きたい時に、使用するという使い方です。

サイズ:L88 × W53 × D29 mm、重量:100g(電池含まず)、防水レベル:IPX6、電源:単4電池2本、20チャンネルGPS(低ノイズアンテナ内蔵)&電子コンパス(デジタル表示&8方向の矢印表示)、バックライト照明付き